

# 会 議 録

会議の名称	令和4年度第4回天草市総合政策審議会
開催日時	令和4年7月15日(金) 13:00~17:00
開催場所	天草市役所2階 庁議室
議長名	玉村 雅敏
出席者氏名	玉村会長、田中副会長、荒木委員、江良委員、小川委員、小田委員、木村委員、黒沢委員、澤田委員、西村委員、山下委員
会議次第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 議題 (1) 第3次天草市総合計画の策定について ・基本構想(ありたい姿)と前期基本計画(施策)との関係について ・前期基本計画(素案)について 4 その他 5 閉 会
審 議 内 容	
<p>(1) 第3次天草市総合計画の策定について</p> <p>・基本構想(ありたい姿)と前期基本計画(施策)との関係について</p> <p>○事務局説明</p> <p>(副会長)今回の資料は、ありたい姿と政策との結びつきを行っているという事ですね。大枠は賛成で、先ほどの説明で2つに分かれていたのを1つにしたということはずごくいいことだと思います。ありたい姿が考えられているのが当然主観ですが、それ以外の関連する政策を表すこともすごくいいと思います。しかし、なるべくありたい姿が少ない方が相互に連携する事ができていいと思います。例えば、ありたい姿の1番と4番を地域から人のほうを見ているのか、人から地域を見ているのかで一緒ではないかと思いました。それぞれのありたい姿がくっついてきて、いわゆるクラスターというような形になっていることがいいのではと。主に繋がっているものがあって、それ以外のものもつながっているなど、また、別のもものは集中していくつかが繋がっていると、一方方向ではなく、両方向で並びあっていて、特に行政の分野は、本当に多様な結びつきになっているといった形です。行政の方の見方だと分かりにくいかもしれませんが、市民の方からみると一つのことをやって全部繋がっていると分かりやすいのではないかと思いました。すごく書きぶりが難しくなると思いますが、クラスターで出来ているものに対して、掛け算みたいな事を考えていかないといけないという印象をもったので。</p> <p>(会長)先ほど話をされましたありたい姿の1と4が一緒でいいのではというご意見が最初にあったと思ひまして、このことに関しまして、地域の方から見るというところにもう少し補足説明をお願いできないでしょうか。</p> <p>(副会長)地域の個性や特色を生かした地域作り活動や、課題解決に向けた市民活動が行われているというのは、その地域の個性や特色は結局、その歴史や文化に根ざしてい</p>	

るということで、その4番から1番に派生して、1番をまた観光にも結び付けていくということです。地域振興部門と教育部門が連携するのに、さらに観光部門が絡んでくるのが一番いい形であって、循環しているということです。双方向になった方が行政と市民との連携という意味ではいいかもしれませんが、行政だけのことは分けていた方がもちろんいいですし、そういう意味では二つに分かれていたっていうのは理解ができるのですが、どちらを目指されますという意見です。

(会長)あえて足場としてはいくつもあって、そこに向けてきちんとステップがつくという事だと思うので、人からみるか地域からみるかを分けることもあるかもしれません。そういうふうに進んでいるという展開も見えるかもしれません。

(副会長)こっちではこう進んでいるけど、こっちはここまでみたいなのが分かりやすくなるかもしれません。たしかに分けておくっていうのも一つの手ですね。

(会長)歴史文化で見ると、ありがたい姿の1が加わることでひとりひとりが役割を持つということが加わってきて、もしかしたら教育や市民活動なども4の方に向かって行かないといけないのではと思ったところです。あと、目指すものとなりた姿は少し違ってはいますが、しかし、やることはありがたい姿が実現するために基本計画を作る事です。この後の議題の基本計画では、ありがたい姿がどうやったら出来るかというのが一番重要であって、それぞれの基本計画の40の政策がどのようにありがたい姿を目指しているのかっていう事を示していかないとイケません。例えばありがたい姿に対して政策は何を考えているのかを基本計画には書いて欲しいわけです。ありがたい姿のどういう事を目指すのかを調整していってもらいたいと思います。そうするとこのありがたい姿にとってはこういう政策を、ここに入っていないとおかしい、もう少し教育に関わる事が入ってこない足りないという指摘を皆さんと共有したいと思います。

(委員)歴史と文化のところで、感じるという一般的なとらえ方ではなくて、これは天草市の財産、貴重な存在として、認めるといった表現がいいかなと思います。特に、歴史と文化は天草市に住む人に誇りを、訪れる人に感動をという貴重な意味があるじゃないですか。これを受けてそういう事をします。次世代の子どもたちを天草の歴史と文化が育ててくれる、そして後世に継承していくような期待があってもいいかなという気がします。だとすると、やっぱりその歴史と文化を認め、子どもたちを育成しでもいいですし、担い手を育成し、そして天草に郷愛や誇りをもっている、そういう事でも違っていくと感じます。

(委員)以前の文化の話の時に、天草の子ども達が海で遊んでないということを書いたと思いますが、今の子を見ながら、次世代とか子ども達の育ちや環境の保存といった感じが天草に誇りを持っているというのにつなげるためにもぜひ次世代の子ども達が育成されるという事を考えると、教育部門というのが入ってくるべきと感じたところです。

(事務局)委員からのご意見の教育の部分では、地域や歴史や文化、豊かな自然などの体験学習の充実が含まれておりますので、まさしくこのところで教育と歴史がつながっていくものというのがあります。その他にも政策11に生涯学習推進がありますが、当然生涯学習の中でも、歴史文化の各種講座等も開いております。生涯学習の事につきましても関連してくると思っております。感じと認めというご意見になりま

すが、認めっていうと強いイメージがついてしまうのかなという所で、感じという事で事務局ではまとめた所でございます。それに対しまして、みなさんでまたご意見いただければと思います。

(委員)少し拘りますけど、色々と説明をいただきましたが、次世代の育成や崎津の世界遺産での学習などそういったことで認め、そういった事が循環になってそしてあの、後世に受け継いでいかれるのではないかなと思います。ですから認めとした方が、色々なとらえ方の入り口になるのではないかと。

(副会長)2030が終わりではダメです。2030をベースにそこからサステナブルっていうのをすごく意識されるべきなので。語り継ぐ、多様な価値を認めたいとかがいいと思います。天草の歴史と文化に多様な価値を認め合い、地域に住む誇りを語り継いでいるくらいの書き方が持続可能な感じがしますし。しかし、感じることも大事で、その子ども達がまずは感じる事がすごく大事だと思っていて、そこから入るといいのかなと思いました。あと、伝わるうえで大事なのは、ありがたい姿の文言の中で、まちづくりとか地域づくりという言葉は、極力減らした方がいいと思います。すごく抽象的になってしまって、誰がどうすると結局はいろんな議論進めると、部門が一緒になってしまいます。そうすると私みたいな考え方をしている人は一緒にいいと思ってきました。ある時はこっちの姿を目指し、ある時はこっちの姿を目指し、やっている事は一緒なんやけど、ありがたい姿は2つといった感じで、すごくいい指標になるも思っています。まちづくりとか地域づくりとの表現はやめた方がよくて、そういう意味でこのまちになっているや地区になっているといた方がすごくいい事だと思うので。

(委員)最終的にその5つの理念で将来像に実現に向ける形にしていくみたいなことで、今回考えたのですが、将来像は「ともにつながり幸せ実感宝の島天草」です。言葉は、受け取った人の心が動くとか、何かアクションを起こすものと思っていて、「ともにつながって幸せを実感する宝の島天草」と言われて、これ否定する人はいないと思いますが、あえてこれを言って、何かが変わるとか動くのかと少し気になっています。そこで5つの理念の中では、自然が最大の大切な持ち味をもっていて、また、次の世代の担う子どもが安心して育てられるという、その子どもを育てるところというのは、ものすごく重要なかなと思います。全部を通して、歴史も誰か人が次の世代に伝えていくわけで、この学ぶ部分でも、やっぱり子どもに学んで欲しい、子どもが学ぶのであれば、その鏡になる大人も学ぶというふうな、うまい伝道型がとれないかなと思います。最終的には、行政経営がそこを全部支える、下支えだと思っていて、自然があるからつながっていける、稼げるし、学んでもいける、やさしさと安心のまちにもなり、そして、子育てができる、子育てに最高のまちとして天草は適しているという事になって、私は、最終的に将来像はシビックプライドかなと思いました。例えば糸島はなんか最近面白そうとよく聞きます。私も横浜に住んでいた事があるので、横浜はいいとこだねと言われて、自分のあえて言わないでも、みんなが横浜のことを自慢するといった最終的に将来像は、誰もが天草はいい所だと言えるようなことで、プライドに繋がる流れを作った方がいいかもしれません。もし子育てに最高のまちであれば、移住で考えると一回子ども達を遊びに連れて来るとか、仕事は何ができるみたいな、いろいろな選択肢があっていいと思います。

人それぞれにふるさとがあるので、山形の人も高知の人も、その土地に愛着といったふるさとというものを持っていると思いますが、特に自分の土地って、こんなふうになっているからみんなおいでよ、と言えとなる外堀がすごく必要かなと思います。19のありたい姿を一つ一つ詰めていくと思いますが、何の為にやっているのかと思ったら将来像の為に、将来像を支える4つの理念と全部支える行政の理念みたいなのがあると、宝の島で終わらない、最終的には天草というプライドを自然ともてるといい、そういう流れができないかなと思いました。どうしてもそのやさしさと安心のまちだけで終わっている部分もあって、子育てがしやすい、子宝に最適な島みたいなことも出したら、そこまで言うんだったら、どれくらい子宝に恵まれるまちなんだ、島なんだとか、確かめたいと思います。日本三大ちゃんぽんと誰が決めたか分からないですけども、天草は日本三大ちゃんぽんの一つと呼ばれていますよね。と言われたら、なんか食べたくなるじゃないですか。何か動くのであれば、何か一つ象徴的なものをてっぺんに置いた方がいいのかなと思います。

(会長)シビックプライドが出来上がっているという事が重要な要素だったりします。場合によってはもう一つのありたい姿をつくってもいいかもしれませんし、考え方として、子育てのことに関して、このまち、この島の、この天草の自慢になる事が出来るようにしていこうというところに重きをおいてもいいかもしれません。

(委員)つながりに稼げるまちですが、次世代の担い手といった教育の部分が必要ではないのと思いました。漁業にしても何にしても次の世代が必要と思ったのと、ふるさとにやりがいを感じてというのが正しいのかなと思いました。あと、働ける場所というのは、働かしていただいているみたいなふうにもとれると思うので、働く場所すると自分の意思で働くという所が表れるかと思います。能力的やチャンスのとか、そういった意味合いもでてくるかなと思うので、働く場所という方がいいと思いました。

(事務局)次世代という部分につきましては、政策、政策計画の中でも担い手の育成というのを表に出しています。そういった中で産地力を上げるという所に次世代の育成という事につながっていくということで表現をさせていただいています。

(事務局)次世代という言葉が出てくることに対してですが、私たちの教育振興審議会も平行して教育部門の計画と総合計画の整合性を合わせながら進めておりますが、次世代という言葉自体に少し意見がっております。教育部門の次世代については、子ども達に学校教育を中心にした学びという所に焦点を当てて作っているという部分になります。ご意見の中で一つの所に全部集約していくとなかなか分かりづらくなるといった所で次世代の担い手の育成の所は作り込みを現在も協議しているところでもあります。しかし、子ども達には地域の方と一緒に教えるといった部分は必要と思います。子ども達が学ぶ為には、学校現場にいる先生達も学ばないといけませんし、地域の方々にも勉強していただき、自分達で将来の天草を作っていくというそういった面もあるので、地域でやるという所と、学校教育の中、学校現場でやるというところは分けるのではなく、どちらも大事なことだと考えています。

(会長)スケジュール的な観点で、悩ましいのは総合計画や分野別計画が平行して検討していただいているというのがあって、そうすると、次世代という話で、教育の世界と

してはこういう事となりますが、審議会としてはどうしても天草市の2030年の姿をどう考えるといった事で考えていかなければいけません。そうすると次世代というキーワードがどうしても、いろいろに関わってきてしまいますし、例えば、教育の事に限らず事業承継の話かもしれない、次の挑戦する人も一緒になって活動することがあったほうがいいかなという面もあったりするかもしれません。

(副会長)会長に言っていたとおりで、私も勘違いしていた所もあって、イメージが逆というのも結果的には行政の皆さんが、どういうありたい像を実現する為にどういう政策を作っているというところの目標度とのつながりが行政だとよく見えていると思います。市民側から見た時に見えにくいなという所を少しくんでいただければこれで十分いいものが出来ていると思います。先ほど委員が述べられたみたいに最終的には市民のみなさんが天草市ではこういう事やっているというのを説明して下さるのが一番効果的だと思います。

(会長)挑戦することを受け止めて行く事が重要だと思います、例えば、観光ではキーワードとして、スポーツコミッションという形で終わらせるのではなく、もう少し先があるということも確認してみたいです。今はコロナ禍だからこそ、観光は世の中でやっているツアーが結構変わってきている状況だと思います。サステナブルツーリズムやジェネレーティブツーリズムなどという新たな観光です。これは、環境保全に自分も関わっていきます。やゴミ拾いに行っているだけではなくてイルカとか環境の問題をよく理解して自分の関りにつなげていくということです。今は、自らが行動するとか、何か重要な事を大切な事をちゃんと確認しなおしていく、まさしく自分事にしてそういうツアーが出来ています。単に、世界遺産あるからそれを使った観光で止まらないようにぜひ考えてもらいたいです。

(副会長)そしたら大手を振って言えるような気がします。行政の皆さんからしたら、これだけぶら下がって、どうするのっていうのもあると思うので、例えば掛け算にチャレンジするみたいな、ゴミ拾いながらトライアスロンしてみたら2つの部分が繋がるとか。結局これだけぶら下がっているならいかに少ない人数で多様なツーリズムを作るかみたいな事に天草市はチャレンジしてもいいかもしれません。12ヶ月違うバラエティの観光が出てくるとか、さっきから出ている、次世代とか世界初とかというのもしやすいと思うので、狭めるのではなく、多様性をまずは出しやすい。そういうイメージ、掛け算のイメージがでるといいかなと思いました。

(会長)そういった所で、世界中のいろいろな所と競争するわけですから、そうすると行政の方にも経験として視察し、農業の部署もあれば林業の部署も本当にツーリズムにつなげようとする事に付加価値率が上がってくると思います。そういった観点でこれを機に少し考えていただきたいと思います。次はインプットの政策の話にもなってきますので、横断的な事として考えていただければと思う事が一点あります。ありたい姿を実現するために、各政策が出ているわけです。実は今まで総合計画とはあきらかに違う作りになっています。政策のまず一番目に現状があります。天草市はまずこのありたい姿を目指すためにこの政策があってということです。現状ではなく目標がくるはずで。ありたい姿としては、ワンフレーズでありたい姿が一番ですが、この政策のありたい姿の何番と何番と関わっていますと、出

していただいて、こういう意味でありたい姿を受け止めます。と最初に書いていただければと思います。何かの課題ってどういう事かっていうと、ありたい姿と現状のギャップが課題という言い方をするので。ありたい姿を書きました。これにはギャップがあるわけです。ギャップがあるから、課題です。さらにありたい姿だけでは、実は現状がよく分からないので、ありたい姿はなぜ、どういう現状かという事を確認して、ここにギャップがあるからこそ、ここに課題が出来るようになって、各政策の最初にありたい姿を出して、ありたい姿をどう理解しているのかという事も解釈してほしいと思います。そうすると、この政策の意味はこのありたい姿にあるのだと、伝えやすくなります。そうすると、目標として目指す事が言いやすかったり、どういう意味合いを持つかという事ができてきます。2030年や2026年といったタイミングを意識して、こういう事だと説明する。さらに、課題というのはさっきのギャップの話で、ありたい姿と、現状のギャップが課題ですというふうに説明を聞いていただきたいと思います。そのうえでもう一個お願いしたいのは挑戦するという事がないとはいってない、ギャップをみると課題がありました。その課題をどうするかという問題で、こういう事は挑戦なんですという事と言い換えたところです。例えば20万つけていただいて、これは挑戦する事なんですとか、2026年へ向けた挑戦は、この場合おそらく課題が、何か変わっていつ改善する事に向かいます。そういう説明がアクションプランになってきます。まずは、ありたい姿をしっかりと書いていただくという事があり、何か挑戦する事とかを明確にしていきたい。そうするとこれが、この後の天草市が進めていくことをすごく説明しやすくなってきます。そのようなことを受け止めていただければと思います。

(事務局)ありたい姿につきましては、どういう事をイメージしてという事を、具体的に文章に書きたいなと思っています。会長からありましたとおり、この政策はそのありたい姿のどの部分を目指していくのか、いわゆるありたい姿をこの政策をどうやる事で、ありたい姿にしていくのかという所を書いて、目標と現状のギャップが課題に繋がっているという所で、どのように表せるかを考えてみたいと思います。政策の方で検討協議を加えながら、とにかく3年間でやっていくことへの課題が解決されてありたい姿のこの部分を実現できるようそういったシナリオをもってやってみたいと思います。

・前期基本計画（素案）について

○都市基盤整備部門説明

(副会長)政策33のまちなみの形成は、インフラ部門でももちろんいいと思いますが、大事なのは先ほど皆さんが議論したありたい姿の歴史と文化を感じ天草に誇りをもっているっていうものにも関係してくると思います。例えば、崎津の漁村景観というのを考えた時に、そこに消防車が入れるなども大事ですけども、あそこに世界遺産があるということがこの天草の子ども達にとってのすごく大事な教材だと思います。天草の歴史と文化の多様性を認め合い地域への誇りを語り続けていくという基盤は街並みです。いい道路があるからその街並みを変えて、安全安心に世界遺産の観光の人もきちんと使え、地元の人暮らしも向上しているのを感じられるっていうふうにしていただきたいと思います。このありたい姿の4番の項目にだけ

はというふうに思いました。

(会長)町並みというどうしても、安心して暮らせるという観点がありますが、歴史文化での町並みといったところにもつながってくる、そういった観点も持っていただければと思います。

(副会長)先ほど委員が述べられたように、子供達が好きな時に移動できないというのは交通の問題でもあり、観光にもつながっていますし、クラスター型の政策の展開だと、土木の道路というその上に乗っている人達、都市交通になるのかもしれませんが通学だと学校関係になるかもしれませんが、そこの結び付きというのをぜひ表現していただければと思っています。あと、自動運転の話や免許持っていない子供達が自分で行きたい時に行けるっていうのは、ありがたい姿の子育てにもつながるのかなと。あと、道路もすごく大事だと思いますが、海の交通も使えるといいなと思います。

(会長)河川整備をするという考え方もあれば、その安全の視点で現に災害がなくなっているという事もあります。何を必要とするかを整理という事も必要ですし、こういう災害の発生という事も確認していくもとも重要です。例えば河川機能の充実がありますが、それはそれで重要で、それがないと災害リスクが高まっていきます。あと、そういった計画部分では、形状的な話しがでてきやすいのですが、これから3年か4年の間で特に重点的にやった方がいいという部分をあえて加えていただくと、目標とされている災害の件数が減っていくと考えています。

#### ○産業経済部門説明

(会長)まず、稼げるというところの、つながり稼げるという部分でつながってきているのですが、多くの関連政策が入ってきていると思います。こういう事を政策しまして、もう少しこういう観点から考えてみようという方はいらっしゃいますか？そういうご指摘をいただければと思います。

(委員)先ほどの主文に重なるのですが、メインのページは繋がり稼げるまちで、ここはバーンと貼ってもらったらいと思います。あと、自然と共生するまちのところで、まさに今自然環境を保持しているのが一次産業の皆さんだということをごい描かれていて、すごくいいと思いました。その次にくるのが、学びとのつながりという事で、最近の実業系の高校が元気です。農業高校とか今商業高校がすごく伸びていると思います。ビジネスに直結しているのを子ども達が将来働けるということにすごくつながっているので、ぜひそのともに学びともに育つまちにつなげていただければと思います。ツーリズムで本物の職人技が見れる天草や漁業を学ぶのだったら天草というのが当然あるでしょうし、職業体験みたいなのが環境と結びつくなど、結構あると思っていて、そのようにつながるところがおもしろいなと思っています。いきなり全部は難しいかもしれませんが。

(委員)豊かな里海の再生のところなんですけど、水揚げ量となっていますが、牛深のまき網船がすごいのですが、牛深の船は、長崎や鹿児島といった魚価が高いところへもってくるので、熊本県や天草に対しての水揚げ量に影響されないと思います。その県内の小さい船や熊本船籍での水揚げ量だったら分かると思いますが、単純に水揚げ量が指標として達成するとその藻場の保全と魚の量と相関があるという点ではどうかと思います。あと、経営基盤の強化のところですが、新規漁業就業者

が成果指標となっていますが、生産力向上に向けた対策、経営安定対策となってくると平均魚価単価や値段などの数字的なものがありました。漁業就業者数が増えると経営が安定しているというのは少し違うのではないかと。結局経営が安定するということは、平均年収や魚価だと思います。

(事務局)そこについては確認をして、調整をしたいと思います。五和への水揚げはほとんど地元ばかりです。ただ、外に持っていかれる方も実際あります。確認をして調整したいと思います。

(委員)とにかく地元の天草沖で捕れたものだけじゃないということです。天草漁協の水揚げ量で他の他県の影響でどんどん上がっていき、それで保全再生活動が成功しているという判断は少しまずいと思います。

(事務局)まずは現状としては実際魚数も減ってきているという所と、地元の水揚げも下がっているところがあります。そこも含めて確認をしたいと思います。あと魚価についても社会情勢や今はコロナ禍で単価が下がったりなどで変動がかなりあり、下降傾向にあったりとそういう所もかみして検討したいと思います。

(委員)そうですね、最近漁港とかはコロナで一時期厳しくなったので、そのマーケティングを変えて、輸出の方に変わってもきています。冷凍でアフリカ大陸や東南アジアなど各国での需要が増えていて、魚価ってすごくあがっています。危機的な部分として市場に喚起するという部分にどんどんと対策を立てるというよりも、その辺のマーケティングを増やすような、例えば大きな冷蔵庫の誘致などで経営を安定させるということも考えられます。

(委員)指標の成果指標の件で具体的にはそこが数字だと思いますが、商品開発というのは、六次産業として申請を出されている方が全てではないと思います。それは一部の方だと思っています。商品開発として地域の食材を使って料理や洋菓子、和菓子を作ったりしていると思います。地元の食材を使いながら、商品開発をされていることは毎年あります。例えば、いちじくフェアや晩柑フェアなど新しい食品と作ってそれを提供されているという事があります。それくらいまで広くみたような商品開発をするっていうのを提示した方がいいと思います。今から先、商品開発支援事業を申請するというのは、少なくなってくるとおもっていて、それで判断するよりも、商工会や商工会議所所から数値を集めてくればいかなと思います。少し検討していただければと思います。

(事務局)今ご意見をいただいたように行政の方で把握できる部分とは別に商品開発などの部分があると思います。検討いたします。

(会長)総合計画の中では基本構想では、天草市がいい方向に向かっているということを示す必要が出てくるわけです。そこに向けて色んな政策でも取り組み、指標というのは自分達が働きかけて、直接的な取り組み、いわばこの活動をやった結果が施策に影響するであろうという段階だと思います。

(委員)会長がありがたい姿と現状とのギャップをこれどうやって調整していくか、そういう書き方に変えていくというのであれば、多様な人材による、市内企業の雇用だとするとありがたい姿っていうのは、外国人や65歳以上方には、好きな企業でばりばり働くみたいなそういうのもひとつの解決法ではないでしょうか。

○観光文化部門説明



(副会長)先程からずっと議論しているありがたい姿をつくるための政策という話です。天草のリーディング、有効化なんじゃないかなと。2030年にはそうなっているという姿を言うのが必要で、元々文化部門は教育とくっ付いていたと思います。それを分けて特化しているところに天草の特徴があると思っていて、すごく頑張ってもらいたいと思います。そういう意味でつながり続けられますか、やさしさと安全のまちで、各々には入っているのでもいいのですが、その辺がどうやってつながっていくのが見せどころだと思っています。私的には観光は観光、産業は産業と任せて、文化のところをちゃんと文化と言うことだと思っています。そういう意味でぜひ、観光、文化から観光と教育を繋いでいるという意識で進めてもらいたいと思います。

(会長)文化は確かに結構重要なところですが、表現の仕方にもなりますが、文化の振興というと、中身が濃い所だと文化の振興が一般論のような言葉でこういう意味ですとなってしまうのですが、中身をもっともっと見せて頂くと良いと思います。そういう意味ですでお気づきのところも、まだ反映できていないところもあるかもしれません。

(事務局)ありがたい姿で、歴史と文化を感じて天草に誇りを持っている。その政策12で文化の振興。何をしているのかが少しわかりにくいところを、政策企画課からもご提案がありました。今のところ、全く素案のレベルですが、文化の振興を芸術文化の振興と歴史文化の継承という政策の方がいいのではないかと検討もしているところです。この、ありがたい姿と政策がもうイメージできるような形に今後変えていきたいと思っています。

(会長)ぜひそういう方向で検討して下さい。すでに具体的にありがたい姿と言うのをこういうことで、政策で引き受けていくのだというところが、伝わるような書き方をぜひして頂ければと思います。

(委員)御所浦の皆さんと話をしている中で、今でも混んでいる時はフェリーが1時間2時間待ちということも聞いています。目標値が、1万人とか10万人とか、恐竜目当てにすごく来られると思います。で、その時、島内の人の動きとどのように共存できるのかというところが常に観光と地元の方とのうまい帳合が必要ではないかと思っています。この部分は、基本計画で同時に何か触れておかないと、逆にたくさん来てもらっては地元としては問題があるのではないかなと。

(委員)今の意見に関連して、修学旅行です。島の皆さんの念頭にあるのが、コロナです。もし町外からそういったコロナ保菌者から御所浦島民に感染した時、本当に島自体の生活が成り立たなくなる。そういった思いが非常に強いです。2030年、きっと収束するという期待もあるのですが、どこかにこのことは触れておいてほしいという気持ちもあります。島特有の生活環境があり、たくさん来てもらうことが島民の生活が圧迫されるようなことにならないかという気持ちもあります。個人的な見方だけの発言も言いましたが。

(会長)島民の生活などにも関わってくるようなことを含め検討していくと、いろいろと見えてくると思います。もう少しそういった切り口を少し作って頂ければなあと思います。

(委員)先ほど副会長からご意見がありましたが、私は、観光部門と教育部門をきちんと明確に分けて、取り組む政策をコミットした所でありたい姿の環境と文化が次世代の

担い手の育成にとっても重要なポイントになってくると思ったところです。部門のところで責任の所在をはっきりさせるために一つの部門しか入っていないのが認識であると。

(副会長)次世代の担い手の育成というところを教育部門と観光文化部門で協調してなんか乗り切ると言うような取り組み方はできないのか、検討できると面白いのではないかと思います。でも教育部門に関しては、どういう風に教育していくかという仕組みを考えてられていて、観光文化部門ではどういう観光と文化を教育してほしいというところを一緒に考えられると面白いのではないかという一意見です。

(事務局)今までご意見をいただいたように、次世代の担い手の育成ということで本当に幅広く捉えられていると思います。今回基本計画にある政策9につきましては、教育、学校教育の関係と捉えておりますので、次世代の担い手育成と言うタイトルを変えないとそういった色々な意味としてとらえられてしまうと思います。担い手につきましては、新規就労や新規就業など農林、農業の振興、林業の振興などそちらの方にも入っています。担い手育成すると産業の担い手育成ということになっておますので、学校教育、児童教育の話ということで、タイトルを変えていきたいと思っています。

(委員)魅力ある観光というところで、本物の資源を市民に再認識いただきといった、本物にすごく重きを置いているように感じます。何かと比べて、偽物があるのかということなのか、それとも、他とは違うということなのか、対抗意識みたいなものを感じてきさいされているのか教えて下さい。

(事務局)最近、市長が色々な所に講演で呼ばれ、天草には本物がたくさんあるという言い方をもものすごくされています。例えば、イルカのことや御所浦の大地の遺産、様々な他と比べてやはり他にはないようなものがたくさんあると。そこをきちんと磨きあげていこうということです。全面的に売り出していこうということで、本物という言い方をよくされています。表現がいいかどうか検討させていただきます。

(委員)個人的な話で言うと、数年前に自分の商品を作る時に本物ということワードをよく言っていました、それをチームで一緒に作り上げたときに、「本物って何ですか?」とすごく言われて、みんな本物であるということにぶつかると、自分の言葉でザックリなんとなくイメージは分かるのですが、市民一人一人が本物を説明できるといった時に、ザックリし過ぎた物になってしまうと、またバラつきが出てきて何が本物かということにならないかと思いました。

(副会長)僕の分野ではよくある話で、歴史をやっていると常にそれ、本物偽物疑惑になります。しかし、本物にこだわりたいって思うことは実は大事で、本物が何かを説明する必要は、私はないと思っています。みんなが本物を目指しているという姿が多分大事だと思います。起源をきちんと辿ろうとする姿勢をみんな持っている。雑節でも、本来はどのような使われ方をしていたのだろうという飽くなき探求している人がいるとか、南蛮について色々な事を知っている人がいるとか、本当の教育ってなんだろうって考える先生がたくさんいるとか。だからオンリー1とほぼ同義で使ってもらっていいのではないかと思います。今の議論はすごく健全だと思いますし、本物や偽物、そういうのではなく、自分たちで作っていく、歴史は残ってきたものだけが歴史ではなくてこれから作っていくのも歴史なので。

(会長)限られた紙面で書こうとすると、一言で片づけられるかもしれませんが、こう便利なマジックワードとして言葉でいうと、市長が言ってというのには最後に説明しやすいのかな。実は気になっていたのですが、ありがたい姿を引き受けるという感覚でありたい姿を指名されるでしょうから逆に指名していかないと大変ではないかということです。要はこれでけしかありがたい姿につながらないのかといったみたいなことがおこりえるかもしれません。

○教育部門説明

(副会長)今説明事項でも工夫されていて、ありがたいと思います。この中でも特にですね、バリアフリーですね、天草市でも課題じゃないかと個人的にも思っています。実際取り組まれていると思いますが小中学校の冷暖房はもう取り組んでおられるので表現がないと受け取ったのですが、もしそういったことを取り組む必要があれば示された方が市民は安心されると思います。そして行政の表現なので、読んだときに難しい、固いなという印象があると思います。堅い表現になっています。

(事務局)冷暖房の件については、平成28年～30年辺りに全教室に基本的に設置しておりますので、今後はしっかりと更新していくとそういったところで今回は省いています。実際取り組んでおります、バリアフリーやトイレの改修、トイレの方は洋式化と合わせてそういった部分で順次、切り替えていますので、その部分を具体的に入れさせて頂いたというところです。

(委員)次世代の担い手の所で、認識としては子どもたちに焦点を充てたような取り組みという風に説明がありましたが、その子どもたちの範囲が小学校とか中学校に寄っているような政策になっているのではないかと感じました。成果指標でも、学校関係の指標など小中学校に限ってくることで、幼稚園と保育園といった教育の充実させるための取り組みが弱い印象を受けました。

(事務局)先程、政策名の見直し、文言の見直しについても説明を行いました。元々、この政策は学校教育の充実でした。教育部門でいくと、生涯学習っていうのが、生まれてから亡くなるまでということとあり、その間の生涯学習という部分としてではなく、一つ特化している部分というところで学校教育、小学校、中学校、幼稚園とそこに限定した部分の政策という形で内容を考えております。生まれる時からと生まれる前からということと、家庭教育の充実とかそういった部分は生涯学習でも入っていますし、こちらの方の今の次世代を、ということであれば、幼小中連携の部分といった部分で書き込みを行っているところです。

(会長)どうしても教育委員会としては、義務教育とないしは幼稚園となってしまいます。市民としては生まれてから、高校生の時、大学生の時、高校生は少なくとも市民ですし、教育委員会だけの話ではないということだと思います。そういったところをどう見ているのかが気になります。

(事務局)教育振興審議会の中、構成についても最初に生涯学習を大きく持ってきた方がいいとのご意見も頂いており、その中の一部として学校教育という部分があるのではないかなというご意見も頂いているところです。構成、並びについても検討させていただきます。

(会長)生涯学習はそういう意味で便利な言葉で全てへのつながりがあると思いますが、高校生たちの段階で何を考えるかとかもちろんですし、生まれたときからそれぞれの

段階があると思うのでそういう観点で一度見直していただければと思います。もちろん、行政の部門としては義務教育を担当ししっかりと取り組んでおられますから、それが関係して、逆に隙間となっている高校生や大学生の時がないと思います。政策サイドとして、検討されているかもしれませんが、子育ての事を天草は考えていると伝えるのであれば、実は生まれる前から生涯学習ってということにもつながっていきます。

(事務局)会長からのご意見については、市長の方からも子育て世代、そういう世代から大学卒業までを子育てという部分で整理をするように指示も受けております。生まれた時からの部分とその中学校、私たちの義務教育の教育委員会で直接やっている部分、市の行政として直接的なところが中学校までで、高校の教育の部分については県になってしまうもので、連携というところが必要になってきたりします。今、整理をさせて頂いているところです。

#### ○地域振興部門説明

(委員)成果指標についてお伺いしたいのですが、例えば、問い合わせ件数が多ければ成功と捉えられてしまうと、結果としてどのくらいのものがあって結果どうなったか、こういうところが少し見えにくいと思いました。有効性としてどうなのかっていうところを指標で知らせたほうが誤解はないと思います。

(会長)指標に関しては改めて一回審議を行う予定ですが、成果指標との関係性も含めお話できればと思います。

(委員)ありがたい姿を実現するための政策として説明を頂いたのですが、成果指標で今後人口が減っていく中でこのまちづくりに関わってくれる団体の数も多分減っていく方向にあると思うので、この地域づくりに動いている団体数の割合とか数が人口に占める割合も成果指標の一つとして検討して頂くと、達成の指標として明確になると感じたのでちょっと意見させて頂きました。

(会長)全体としてそれこそ、減っていくとか前例だったら、だからこそどういったことで測っていくのかも重要です。

(委員)空き家バンクは、登録を促すための周知及び登録が必要だと思います。空き家を持っている知り合いの方から結構、家をタダでいいからもらわないかと話があります。空き家バンクに登録しないのですかと聞くと、どうゆう人が使われるのか、また、その登録したことで情報が開示されるのが嫌と話します。ブラインドを立てた中での情報開示の仕方や、説明が必要だと思います。あと、縁ですよね。結構空き家で困っている方が多くて、今、知り合いづてに5件ぐらい話があります。あとは、どう登録していただくかというので、確保できる前の問題が結構あると思います。だからあえてご要望とかその状態でこうヒアリングというか、どういう状態でどういうことをすると空き家バンクに登録いただけるのか、事細かな何かそういうところも大事なのかなと思います。

(事務局)今頂きましたご意見は、まさに天草の特性といいますか、空き家はたくさんあるんですけど、どこの誰だか分からんような人に貸すことにものすごく不安というご意見が大きいのは確かに事実でございます。この制度の周知におきましては、毎年、固定資産税の通知を発送する時に危険家屋の関係部署と含めてセットでそれぞれの制度内容の周知や市政だよりでのお知らせを行っています。また、今年は力を入

れるということで、各地区振興会や区長さん、公民館の出前講座等で制度の周知を行っています。当然、空き家バンクに登録したいと相談を受けると移住・定住コーディネーターの方が現地に行って、建物もちゃんと見ますし、でそれで可能ということであれば、登録することになります。HPでの公開も行っておりますが、具体的にもかなり、近いところで写真映していますので、どこの場所、どこの誰物件とは基本的には分からないような形で掲載しておりますので、その辺はご安心して頂ければと思います。その都度相談があれば丁寧にご説明を行っているところです。

(委員)市役所に行く前にも地域で統括されている方へご相談できるような機会を持っておくといいのかなと思います。

(会長)空き家の指標で移住定住の施策と見ているのだったら足りないかもしれないですね。今の天草の皆さんには2軒目を持っているや相続して近所に家を持っている人たちが多くなってしまっているかもしれません。活用できない、ないしは子育てのために、新しい建物を建てるのがあります。地域にある物件を使っていいかもしれません。ただし、今いる地域の方も、空き家を使う前提かもしれないし、自分の持っている空き家に今後住むかもしれないという考え方もあるかもしれません。そういうところに念頭において2軒目の家が活用できるような施策がもしかしたら空き家施策かもしれません。世の中の空き家イコール空き家バンクになって移住政策というのは少し間違っていると思っています。そこだけで見ってしまうと、天草らしくはやれないことがたくさんあると思います。もう少し色々な観点があるということです。もちろん移住に大切なカードだとは思いますが、移住しようと思った人が空き家をリノベーションして入っていただくことがそこへの住みたい方に合うかもしれません。そう考えたら話に見にくくなるかもしれませんが、空き家には色々な形式あるということも考えていただければと思います。

(事務局)実際この空き家バンクに登録されて移住されている方も空き家バンク以外の普通の民間のアパートや市営住宅に住まれている方もいらっしゃいます。天草がとにかく好きだからと来られる方も結構いらっしゃいます。空き家バンクを見るけれども、なかなか自分のライフスタイルとマッチングしない、費用的な面、場所的な面などで登録以外の物件を自分達で探して、住まわれている移住者の方も結構いらっしゃいます。

(会長)今の話は移住政策にとっての空き家であって、でも空き家施策にとっては移住政策以外の選択肢もあるということです。移住政策に空き家を使うというのはすごく重要なことなんですけどね。それ以外もあるというのが抜けていると思います。例えば、空き家を手放したいという人を活用して、地域の古民家施設として使用するなどそういう風にいろんな観点の中で空き家を考えるってことも本来はして頂きたいなと。

(委員)空き家バンクで空き家があって、これを改装して民泊やってみるといったビジネス用途には利用できないのでしょうか。

(事務局)できます。

(委員)最終的にはオーナーさんがOKするかどうかですか。

(事務局)賃貸の場合はそういう形になると思います。あくまでも私たちは斡旋というかご紹介をするという形になります。それぞれの売買契約や賃貸契約には家主さんと不

動産業者さん通じて契約という形になりますので。その後のリフォームへも当然支援制度がございますのでそれを使って頂いてそれは構いません。

(委員)移住といいですか、牛深の方では今外国人の技能の実習生が100人を超えてきています。その住まいの確保が大変と聞いています。多分今から人口が減って技能実習生も増えてくるので、有効活用に向けて個人が払うのではなく、会社が払うので安定収入にもつながりますし、労働力確保にもつながり、外国人の方が泊まれる機会の方が増えると思います。

(副会長)地域振興部門はすごく難しいと思っているのは、行政、天草市っていう大きな傘では市民で良いと思うのですが、地域振興部門さんはどっちかというところ区長さんなどに寄り添ってあげて欲しいと思います。それぞれのコミュニティとして抱える課題について相談乗っていくといった感じにしていくのがいいと思います。2030年にどんな社会があったらいいかっていうありたい姿の時に、市民がどうかというイメージとして欲しいのが、コミュニティがどうなっているかで、例えば、年配の方から若い子まで、ちゃんとした人数がいるから極端に高齢化しないとか。そういう課題がないのが大事と思った時に、教育部門はどちらかというところ個人の資質の部分だと思うのですが、今の、空き家の問題など要は受け入れる側の気持ちになって考えて頂けたらいいのと思っています。どうしてもコミュニティで受け入れるかっていうのと、男女共同参画などはあまり地域振興ではないと思ったりですね。なるべくその地域づくりとか地域振興を全部地域振興部門が受け入れるのではなくて、コミュニティに対応するものは私たちが受け入れて、その他は他の部署で連携してやってください。必要なことはやりますといったぐらいの姿勢でも良いかないかと思いました。

#### ○保健・医療・福祉部門説明

(委員)政策20の取り組みで健康づくりの推進、生活習慣の改善と保険事業等があげられている内容がその3つとも健康意識が高い方が取り組みやすい内容という風に感じたので、もし政策として何か追加ができるのであれば、健康状態が悪い方を引き上げられるような取り組みがあった方がいいと感じました。例えば、企業で健診を受けて再検査してくださいという結果が返ってきた時、人を企業は再検査をするために会社が負担して休ませるといような、行った企業には負担を補助しますや、悪い結果を行政が拾うような仕組みを作るとかというのがあっていいのではと感じました。意識が高い人はすでに取り組んでいる方が多いとされていて、そんな政策があると効果的なのかなと思いました。

(事務局)健康意識の高い方ばかりではなくという意見をだと思っています。国保年金課が主体にそのようなところに取り組んでおります。簡単に言いますと、フレイル予防ということで、虚弱を予防するというところで、年齢階層が上がるにつれて足腰が弱くなっていくという方がおられます。今年度から河浦地区と栖本地区、2地区をモデル地域としまして公立病院と歯科医院の先生方と取り組んでいる所でございます。それは、健康意識の高い方が対象かもしれませんが、参加をして頂くというところから始めていきたいと考えており、また、地域包括支援センター、社会福祉協議会、病院の先生方と一体となってそういう方々の意識啓発に取り組んでいきたいと思っています。一番は健康において意識をして頂くということが大きな一つの目的で

す。

(委員)フレイル予防の方々は、高齢者の方に向けた対策がメインだと思うので、40、50 ぐらいの年齢層の方々が今後、生活習慣病にかかる一歩手前で防ぐことでの取り組みが少し弱いのかなあと感じました。

(事務局)40歳の検診受診、検査料は無料ということにしておりましたが、今年度から65歳が、定年ということを鑑みて、ライフステージが変わるということを65歳の方々の検診受診を無料という形で取り組んでいます。75歳からの後期高齢者に医療保険が移行させるわけですが、その10年間も健康な状態でいて頂きたい、そしてまた健康な状態で後期高齢者の方にバトンタッチをしたいという所から今年度から65歳の方々の対象にしております。当然、若年層の方も非常に関心を持っていただくということにも大事なことですけれども、実際、被保険者の割合を見ますと、国民健康保険に限ってのお話であります。65歳以上の被保険者の割合が50%を超えておりますので、その底上げをするにはやはりその65歳以上の方がポイントになるところで今年度から取り組んでおります。

(副会長)保健医療福祉部門は、私にとって最も遠いところですけど、他の部門と違って、看護師とか保健師という人がたくさんおられて、行政的な人ばかりでなく羨ましくも思いました。やさしさと安心のまちにすごくいい感じになるのではないかなと期待しています。特に生活困窮もそうかもしれないですけど、看護師や社会福祉士の皆さんなどそういう風な人たちとどう連携していくのかで、ありがたい姿に溶け込むことができると思ったところです。

(事務局)市の職員としても保健師や栄養士など専門職もおります。そういった専門職が市民の食生活改善推進委員さんの協力を頂きながら、市民の方々の隅々までそういった食生活の改善に向けた指導もやっております。また、介護保険や福祉のサービス事業所の方でも専門職それぞれいますので実際のそういった支援が必要な高齢者や障がいの方の日頃の生活においても、専門職の指導によって行き届いていると思っています。そういった意味でも市民との関連が深い専門職の方がたくさん携われる部門であると思っています。

(副会長)そこを上手にですね、今までは民生委員さんや区長さんがやっていた部分がある程度、若い志のあるそういう専門の社会福祉士の皆様や介護士の皆様が担えるような社会システムを作れると強い地域社会になっていくと思います。行政のサービスとしてやっていくには限りがあるというか、例えば、消防団とかそうですけど、今までできていたものがどんどんやりにくくなる地域が増えていく中で、その手厚いところをどう進めていくかということなんです。子育て支援でもワンストップというのが凄く大事だと言われていて、なんか体の調子が悪いし、貯金がなくて、将来子育てとか不安ということが聞かれます。そのことを上手に他部署に回したりとそういう連携するのは多分、社会としてその個人を救うネットワークみたいなものがすごく大事だと思っています。それをセーフティーネットというか、その部分は保健医療福祉部門さんが作られると思うところで、天草にはそういうセーフティーネットがあつて良かったみたいなことが全体的にかかると、このやさしさと安心のまちのすごくインフラになると思うのでそこをぜひうまく書き込んで頂けたらと思います。

(事務局)民生委員もなかなか高齢化があっておりまして、民生委員の成り手もない、行政区長も結構年配の方が多くて、行政区長も結構 2 年置きに交代されたり、地元、地域の方の生活を継続してフォローしていく方がなかなか見えずらいと言うがあるので、そういった専門職の方がいて、そういうスタッフの方が市民の方とずっと継続してフォローしていけるという立場、形がとれればそっちの方が安心感も非常に高いなという風に思います。

(副会長)新しい仕事みたいな働き方も若い人がそういうのを目指すみたいな、自分の趣味をやりながら、そういう見守りみたいなのをビジネスとしてまわっていくみたいな、そういう姿がなんか今の話にマッチするかなと思いました。限られた人材だと思うので、一人 2 つぐらい仕事をする世の中に多分なっていくと思いますので、検討いただけたらと思います。

(会長)先ほども、結構細かいことがあったと思いますが、まずは、基本構想でありたい姿を踏まえて、もう一段、基本計画を検討していただければと思います。

#### ○生活環境・防犯防災部門説明

(副会長)災害に強いまちの形成で、すごいいいなと思っているんですけど、普通なんかあったら防災となるとハードが出てくるような気がして、ここはほとんどそのことが書いてなくて、この部門に出てこないっていうことにちょっと気になって、なにか理由がありますか。

(事務局)これまで災害、防災につきましては、災害の復旧や災害に強い基盤の整備とかそういったことも含めておりましたけれども、今回は、都市基盤整備部門の方に道路や河川整備のことはあげると。今回、災害に強いまちの形成につきましては、防災面での地域の自主防災組織などそういった災害に対しての地域の取り組みについて特化した計画としております。

(副会長)ハードとソフト両方大事を分けるというのはすごくいいんですけどそれが、連携しているということにすごく意味があることで、ぜひ土木の部分、上下水道、情報化といったハードとソフト両方連携しているのが大事なので、向こうの方にも防災の文字がないことが気になっていたんで、連携しますといったものがあつた方が良くと思いました。

(委員)自然災害後、どうしても救助が必要な時が同時に起こったりすることもあると思いますが、高齢者とかは民生委員の方たちが担当される見守りがあつたのですが、近くに、家の近くに住んでいる高齢の方など、誰が近くに住んでいるかわからないこともあるので、近くの人だけでもいいので知らせられるような仕組みがあればと思います。

(事務局)要支援者の方々の避難については、要支援者の避難計画というのが別に福祉の方で定められております。特に支援を要する高齢者の方々については、個別に支援計画が作っており、民生委員さんや日頃その高齢者の方に関わって頂いている介護サービスの方々、福祉関係の方々など避難が必要な時にサポートするような個別の計画が作っております。福祉部門と連携して要支援者の方々への体制が出来ていると思います。

(委員)安心しました。

(会長)とはいえ、このことは指摘ということです。この部門としての話に限定した話では



なく、例えば災害に強いまちの形成では確かに空間的な話として要介護の方などの意味でサポートが必要な方に対してもその災害に強いまちが必要なであって、こういうところはちゃんと対応していますというのがあればと市民としては安心感につながるでしょうし、そこでまたこういうことに難さがあるとなれば政策に関して色々と改善していき、災害時の不安が解消されると思います。

(事務局)防災計画が定められておまして、どこの自治体もそうですけど、総合的な防災計画で災害予防対策として要支援者の方々の支援も、防災計画の方で総合的にまとめてられています。総合計画については、部署の業務をまとめているという感じになっているかもしれませんが、実際はそれぞれの部署で災害については対策をとっているということでございます。

(副会長)大事なのは、防災計画ができていますが、日常と繋がっていないというところだと思います。いかに日常に繋げるということをまさにこの部門にやって頂かなければいけない事だと思います。今の説明で全くいいですが、結局大事なのは市民がみんな知っているかということだと思います。だからそこを周知して頂ければ今ので完璧だと思いますので。

(会長)ありがたい姿を一個にまとめてくということはある程度聞いたか、場合によっては災害で分けて頂いてもいいと思います。安全安心っていうと全てのことですが、ご検討いただければと思います。お気づきのことがあれば、総合計画に反映するってことは毎年必ずやっていることですから、その点を確認して頂いてほしいと思います。

(委員)脱炭素社会の実現は実は大変だと思います。痛みを伴う中で、特に市全体の今の排出量をまず指標を今とって、何パーセントを目標にするのかだと思います。本当に夏の猛暑の中で、脱炭素社会の実現と書いてありますが相当大変な目標に見えます。我々市民もこれがだんだん変わってきたなと実感を持つところに大切だと思います。その必要性です。絶対に痛みが出てきます。今日も暑いと思うんですけど、電力を消費することをみんなで少しずつ抑えるみたいな心持ち、協力する気持ちもやっぱり出てくると思います。

(事務局)今回、総合計画を作るにあたって、環境基本計画を作成しており、その中で地球温暖化対策実行計画を作成しておりますが、そういった部分も見直しながら市民の方々にどういった形で取り組んでいき、どれだけ達成できるだろうというのを検討しております。

#### ○総務・企画部門説明

(会長)他の部門と切り口が違う部門になるのですが、全体の行政の在り方を担う部門となりますので、ぜひ議論して頂ければと思います。ちなみにこの部門のありがたい姿に関しては、この審議会としては、行政経営改革大綱という言い方をしますけれども具体的なところまで議論していく事になっていきます。総合計画においてはその行政経営、行政改革に関することを全体として示す総合計画でもあります。他の専門部会と同じですが、特に、このありがたい姿をどう理解するかって結構この部門では重要というところだと思います。何でだろうという部分をかなり丁寧に考えていかなければいけないと思っています。だからあらゆる使い方を見てこういう事だということ、今はそこがなんとなくキーワードということ、2026年のこういうことができている

ないと天草市は前進していると言えない、そういくところをまた描かなくてはいけないということです。そうすると、ありたい姿に関して現状はどうなっているかの説明、そういう現状などを語っていただいて、そこに対してありたい姿と現状にギャップがあるからこれに関して調整しますということが示さないといけません。皆さんが思ったからできるわけではなく、市役所の中でやらないといけないことが市役所の職員に通じるようなことでギャップを示していくと皆さんがありたい姿を実現しやすいでしょうし、いい方向に向かいやすくなっていきます。その時に共通して出てくることなんですけども、挑み続けるって何なんですかということです。そういうことを場合によっては補足で書いていくといいと思います。基本計画の話としてどうするかよりもおそらく基本構想の中で挑み続けることがなぜ必要なのを説明していきながら基本構想としてそういうことを掲げているからこそこういう各専門部会がそれぞれの挑戦することを出して頂ければと思います。

(副会長)理解がすごく難しかったのですが、今、本当に挑み続ける行政経営という言葉は何かということがまさに分かりました。私も悩んでいるのはこの言葉をどれだけ市民に広げることができるかということです。今の行政におられる方はみんな意思統一できていると思いますが、それでも合併前の市町が今どうなっているのかといった調査も大事ではないかと思っています。また、次の担う高校生、中学生が天草市をどうしていきたいと思うかどうかっていうところが一番大事な所で、そこが持続可能につながり凄く大事だと思っています。高校生に分かり易い行政の目標みたいなことでの考えていくと2030年のすごく好ましい姿になると思いました。ある公務員の人に言われた言葉で、民間企業と公務員との違いは、公務員は社会を変えられることができる。すごく自負としておっしゃったと思いますが、実際権力を持っていて、民間企業はいくら社会を変えたいと思ってもあの手この手で変えなさいいけない。行政はストレートに仕事をする社会が変わっていきます。だからその部分を高校生に伝わるかということです。大変と思われるかもしれませんが、だからそこに夢のある仕事だということを職員一人一人、若手職員が公務員になって良かったとストレートに言えるということがすごく大事だと思っています。自分達为中心となって作っているというのをいかにアピールできるかが大事だということです。自分達だけでやっていないですよ。市民みんながやっているんですという公務員の影響をちゃんとと言えるかがポイントと思いました。挑み続ける行政経営という言葉をきちんと説明できる、高校生にも説明できることがすごく大事な事かなと思いました。

(事務局)ありがとうございます。会長、副会長からおっしゃっていただきました、公務員は対処ができるという前回の審議会でもそういう風におっしゃっていただいて、改めて考えさせていただきました。職員の働きがい、やりがいというところにつながってくるとしています。職員一人一人が分かっているといないによって、他の部門へも影響してくると思いますし、高校生に働きがいがあるところなんですよっていうことを私たちが本当に自信をもって言えるようなところを考えていかないといけないと思います。なかなか難しいところにありますけれども、挑み続け行政経営という部分で、説明につきましてはお示しをさせていただきます。色んなご指摘を頂きながら作り上げていければと思いますのでまた次回宜しくお願い致します。

ありがとうございました。

(副会長)結局どんな絵描くかっていうのが難しくて。インターネットはサイト入れてピッと押せばサイトに飛ぶじゃないですか。そのようなことが多分文章では書きにくいので一枚の絵にするということはデザイナーにきちんと依頼した方がいいと思います。多分外注した方がよくて、ちゃんと説明をして、一枚の絵にしてもらった方がいいと思います。

(事務局)そこが一番私達も難しく、悩んでいるところです。

(委員)副会長が最後おっしゃったように絵にするといいなと思っています。官公庁への補助金申請の時に書いた絵に色んな人が自然と対話するようなこういう絵を作って、こんな風になったらいいなあっていう。ありがたい姿のイラストですが、これが一つあるとないだけで意思表示ができるというか、本当にビジュアルにするとチームが一体になるような感じがしてきたので、ホントにビジュアルも同時に考えていった方がいいと思いました。

(会長)感覚もそうですし、何かこう情報をお伝えし、皆さんが共感して受け止めて自分事と考えてもらえるみたいなそういった色んな切り口があるっていうことを整理していただきたいと思います。

以上